

# 緊急事態発生時マニュアル

## (送迎中の交通事故・外出中の交通事故等)

- ① 負傷者を救護する 人身事故の場合 負傷者の状態を確認し、安全な場所へ移動  
**119番救急車の要請** 負傷者を動かすことができない場合は、後続車に注意を促し、二次災害を防ぐ 児童を車内に残して車外へ出る場合はロックの確認おこなう
- ② 危険防止を行う 負傷者の安全を確保したら、事故車などを路肩へ避ける(ハザード点灯)二次災害を防ぐために、後続車へ事故を知らせる
- ③ 警察へ連絡する **警察110** 交通事故の場合 軽い追突事故であっても、必ず警察へ届け出る。その場での示談はおこなわない
- ④ 連絡先交換 相手の連絡先 自分の連絡先を開示する
- ⑤ 目撃者を確保 周りに目撃者がいれば住所や名前も聞いておく警察が来るまで、その場で待っていただく時間がない場合は後で警察から連絡してもらうようにする
- ⑥ 事故現場の保存 証拠を確保する ブレーキ痕や車の傷、負傷者の傷など、写真で残せるものは残す
- ⑦ 事業所、保護者、保険会社に連絡する  
事業所へ応援要請する 事故現場へ向かい対応補助おこなう  
保護者へ状況説明おこなう  
保険会社へ状況説明おこなう対応方法うける
- ⑧ 病院へ行く 特に痛いところがなくとも受診する事故直後は興奮状態で、怪我をしても気づかないことがある後々痛みを感じても、「交通事故との因果関係を証明する」

注意点 交通事故を起こすと、非日常的な状況と興奮状態などから記憶が曖昧になったりもします。できる限り、被害者とのやりとりや警察とのやりとりなどは記録に残すようにしましょう。筆記用具がない場合は、携帯の録音機能やカメラ、動画などを使う

## 応急処置

事故直後は興奮状態の場合があり負傷状況などにより的確な判断が難しい場合は救急車要請時に負傷者の状況を説明して対応方法を受ける

**人工呼吸** 負傷者が呼吸をしていないようであれば、気道を確保して人工呼吸を行う

気道を確保するには、負傷者を仰向けに寝かせて片手で負傷者の額を押さえながら、もう片方の手の指先をあごの先端に当てて持ち上げる 喉の奥が広がり、負傷者の体に息を吹き込むことができる

人工呼吸を行う手順は、負傷者の気道を確保したまま、負傷者の口を自分の口で覆って密着させ、ゆっくりと息を吹き込む

- 吹き込んだ息が負傷者の鼻から漏れ出さないように、負傷者の鼻をつまんだまま人工呼吸を行う
- 負傷者の胸が上がるのが確認できるまで、息を吹き込む
- 約1秒間かけて息を吹き込む
- 息を吹き込むのは、2回まで

## 心臓マッサージ

脈拍が感じられない場合は、心臓マッサージを行う必要があります。先程も述べたように、2回の人工呼吸を終えてから心臓マッサージを30回行う

胸の中心（乳頭と乳頭を結ぶ線の中央）に一方の手のひらの付け根部分を当て、その手の上にもう一方の手を重ねます。そして、垂直に体重が加わるように両肘を真っ直ぐに伸ばし、肩が圧迫する部位の真上に来るような姿勢をして心臓を圧迫します。

心臓マッサージを行うときのポイントとしては、以下の通りです。

- 胸が4～5cm程度沈む程、強く圧迫する
- 1分間に100回のテンポで圧迫する
- 絶え間なく、30回連続で圧迫する
- 圧迫後は、胸が元の高さに戻るように、圧迫を解除する

心臓マッサージと人工呼吸は、負傷者が動き出す、うめき声を出す、普段通りの息を始めるまで続ける。または、AEDを装着するまで、救急隊に引き継ぐまで続ける

①人工呼吸2回 ②心臓マッサージ30回セットで繰り返す負傷者が息を始めるまで行う

## 止血

負傷者が大量に出血している場合、止血を行う際は、血液による感染症を防ぐために**ビニール袋**などを使用する

### 止血方法

- 直接圧迫止血
- 間接圧迫止血

間接圧迫止血は難しいため、直接圧迫止血のみを行う



### 直接圧迫止血

まず、負傷者の傷口に清潔なハンカチやタオルを直接当てます。そして、手のひらで傷口を圧迫して止血を行います。このとき、出血している部分を高い位置に持ち上げると、止血効果が高まります。

### 間接圧迫止血

間接圧迫止血は、傷口の上にある動脈を圧迫し、血液が流れる量を減らす止血です。そのため、以下のように部位によって止血方法が異なる

- **腕の止血の場合**  
二の腕の中央を握り、強めに圧迫する
- **足の止血の場合**  
骨盤と股の付け根を結ぶ線上を手のひらで押し、肘を伸ばした状態で体重をかけながら圧迫する